

地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在 10 人がミッションに取り組んでいます。各隊員から、最近の取組を紹介します。

うきは地域総合商社外販促進プランナー
平田 順子

今年 4 月に着任し、うきはは地域総合商社のメンバーとして特産のフルーツを中心にプロモーションや外販活動を行っています。うきはで暮らし始めてまず驚いたことは、フルーツの種類の豊富さ。ぶどうだけでも 47 品種もあるなんて！と、東京で長く生活してきた私にとっては、驚きとおいしさに感動する日々です。まずは、うきはのことをよく知ることを目標に、現在、生産者・事業者を訪問し、こだわりや想いなどについて伺っています。お忙しいなか、皆さん親身に話をしてくださり、感謝しています。

着任以降、福岡市内の商業施設や商店街などのイベントに出店していますが、7 月は東京ドームでの物産展に出店しました（写真）。今回の豪雨災害を心配してくださったたり、懐かしいと立ち寄ってくださったうきは市出身の方もいたり、そんなお客さまとのコミュニケーションを今後も大切にしながら活動に励みたいと思っています。

9 月は、博多での食フェアや有名企業とのコラボイベントへの出店、東京でのマルシェ企画など盛りだくさんですが、うきはの魅力をしつかりアピールできるよう今後も一歩ずつがんばっていききたいと思っています。



山村振興プランナー
錦織 大悟

うきはブランド推進隊に着任し、1 か月半が経ちました。まだまだ手探りな部分も多く、自身の活動内容を模索した 1 か月半でもありました。そんな折、小塩地区自治協議会に同行する形で、東広島市の小田地区へ視察研修に行かせていただきました。

小田地区は 6 百人ほどの山村地区ですが、全国の中山間地の自治組織から、地域創生のお手本とされているところ。そこで地域の恒久的な将来目標として掲げているのが「住みよい郷づくり」。地域住民にとって、いかに住みやすい郷となるか、ということに対して地域を挙げて徹底的に取り組んでいました。

小田地区の視察で、住民の住みやすい町づくりこそが、その地区を盛り上げることに繋がるのでは、という気付きを得たと同時に、自身の活動内容の軸となるテーマもハッキリしました。

今回の気付きを自身の活動に活かすためにも、各山村地区の方々と交流をさらに深め、その中で各地区の問題点を見つけ出し、「どうすれば住みよくなるのか」という点で、地域活性化のお手伝いができるように努めていきたいと思っています。



観光プランナー
菊池 隆寿

久留米大学×うきはは市の域学連携事業が始まりました。これまで地域おこし協力隊が大学生向けに実施してきた短期的活動から、長期的に県内の大学の授業としてうきは市を舞台に学生が地域に入って調査研究授業を実践していきます。久留米大学経済学部「地域事情研修」という授業名で、期間は 1 年間、参加学生は 1 年生が中心ですが、新たな視点でうきは市を見てもらうことが目的です。

うきは市は、自然豊かで多くの産業を担う人たちが、地元に住みながら地元で働き、多様な豊かさを享受しています。それと同時に、少子高齢化や山間部の集落維持などの日本全体が今後迎えるだろう課題先進地でもあります。

「スタディツアー（学習旅行）」として日本の多くの学生がうきはを訪れ、地域の方々と交流することで、学生にとっては多くの学びにつながる可能性がうきは市には存在すると思っています。

大学とうきは市をつなぐことで、新たなうきはへの訪問目的をつくることで、継続的なうきはへの人の流れを作っていけたらとおもいます。



食資源活用プランナー
門脇 美恵子

初夏から始める野菜を利用して、地域の方と“ピクルス”作りを行いました。数種類の野菜の切り方・分量・ビンの形などを皆で考えながら漬けました。カラフルに仕上がったのでとても嬉しくて写真を撮りました。美味しく漬かるようにすることも、そうですが、形や長さを考慮し見せ方にも意識をしました。

うきは市はフルーツの種類も多く、加工品としてジャムやドライフルーツの他にも、フルーツのピクルスにチャレンジしている農家さんもいらっしゃるの、こちらも商品化になればと思います。

私が所蔵している商工振興係では、地域の方々が地域の産品を使った商品（加工品）づくりを行うためのセミナーなどを開催しています。そこで学び開発した商品が、今年度にはでき上がる予定で、私も楽しみにしています。

また、8 月 26 日（土）には、男女共同参画センターだんだんで、「お弁当を作ろう 親子でクッキング講座」の担当させていただきます。食材はうきは市産の物なるべく使った献立を考えています。興味のある方はぜひ御参加ください。

